

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400091		
法人名	社会福祉法人 大須賀苑		
事業所名	グループホーム 野楽里(東の里)		
所在地	静岡県掛川市大淵12680-1		
自己評価作成日	平成30年12月17日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2297400091-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年1月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すぐ傍に池があり天気の良い日は散歩に出かけています。交流ホールがあり地域の方などが活動に使用しています。家事仕事やレクリエーションなどを利用者・職員と一緒に「出来る事」の継続を図っています。毎月2ユニット間の交流を図るように、レク活動を計画して実施している。また、年に1回、家族をお誘いして遠足に出かけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

来月には開設3年目を迎える当事業所は、本年地域とのかかわりについて成果につながっています。小学生の来訪では配膳などを手伝ってもらい、小さな手に支えられる喜びを味わう一日となっています。中学生の職業体験は掃除や整容(ドライヤーで髪を乾かす)をお願いし、横須賀高校の郷土芸能部の生徒には昔懐かしいお囃子を披露してもらえ、郷愁で涙を流す利用者もいました。退出のとき「おじゃましました」と述べる姿や、利用者がこぼしてしまったお茶の代わりを優しく用意してくださる等、「此处は利用者のお宅」と捉え利用者のリズムに合わせた動きや言葉に繋がる職員ばかりであることも財産です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意識して実践に繋げている。忘れてしまうこともある。利用者の見えないところに「見える化」すれば忘れないかもしれない。	理念の掲示や唱和はありませんが、年度の頭には次年度に向けた目標提示を書面でおこない共有を図っていて、その折に理念も再確認しています。目標は半期で達成度を含めた振り返りもおこなっています。	理念や目標の掲示は「家庭的でない」としてきましたが、一方で職員から「利用者から見えないところに貼れば…」との意見も挙がっていることですので、工夫しての実現を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	慰問・草刈りに来てもらっている。地域のお祭り見学をした。地域の一環として日常的な交流はないので、気軽にできるとよい。	大淵地区の例会へ理事長が出席していることから、年間行事を把握することができています。祭りで裏の道を通る屋台にはご祝儀を届け、皆で観覧してハナももらえています。横須賀高校の郷土芸能部の生徒や、オカリナやハーモニカ、手品、フルーツのボランティア訪問もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活動が少ない。発信が少ないので事業所のことが知られていないのではないか。もっとPRが必要だと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施し意見交換している。	併設事業所と同日に実施してはいますが、基本的には時間帯を分けておこなうようにしています。地域包括支援センターや保健福祉に係る団体は大東地区と横須賀地区それぞれから出席があり、利用者家族も含めると18名がメンバーとなり、賑々しく開催されています。	豊富な顔ぶれのメンバーである恩恵をさらに享受するためにも、事前に意向やテーマ等伝えて1分間スピーチの場を設け、活発な意見交換となることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議で現状報告している。体制などわからないときは電話で連絡とっている。	市役所からは運営推進会議へ毎回足を運んでもらえ、事業所も市主催の連絡会へ出席して、ヨコの連携も進めるほか、市主催の「ふれあい広場」にはブースにパンフレットを置かせてもらうなど、努めて関わりをもつようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを実践している。今年度より委員会を設け取り組んでいる。言葉の拘束を意識しているが、出てしまっているかもしれない。	本年の法改正に基づき『身体的拘束廃止委員会』を設置し、7月と10月に会議開催を終えており、あと2回を3月までに予定しています。また社会福祉士を招いて不適切ケアについて学ぶ機会も法人が設けており、研修も充実しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士意識し防止に努めていると思う。法人の内部研修に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	言葉は聞いたことはあるが、よく理解しているとは言えない。 学習会は実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者又はリーダーか計画作成担当で、身元引受人に契約時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族と情報共有し要望など聞いている。法人の苦情解決委員会で取り上げホームページなどで公表している。満足度調査アンケートも1年に1回実施している。	法人の中に苦情解決委員会があり、毎年満足度アンケートが実施されており、また外部評価での家族アンケートにも自由な記述が挙がっており、事業所では改善や解決に向けて取組みを速やかにおこなっています。また遠足には家族も誘い、本年度は掛川花鳥園に出かけています。	家族の納得を盤石にするためにも、通信や便り、一筆箋といった情報共有のツールがあると、なお良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案があったときは上司に報告している。今年度、法人全体の取り組みとして毎月面談をすることとしていたが、継続できていない。	ユニット会議が月に1回ありますが積極的な進言は見られず、事業所としては個人面談を通じて吐露してもらい、また役割を持つことで責任感や意欲を育てたいとしています。本年度は毎月の行事担当を各ユニットから輩し、ユニット交流をねらいとした行事実施に実っています。	個人面談が滞っているようですので、何らかの工夫よっての再開を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	厚生休暇・誕生日休暇、また年次有給休暇が取れるよう配慮してくれてありがたい。 反面、もう少し職員の意見に耳を傾けてもらいたいという意見もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員ではないが、外部研修に参加する機会がある。また、法人の内部研修があり勉強になるが、変則勤務で参加に無理がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	11月に市で開催の「ふれあい広場」への参加をほかの施設より声をかけてもらい、グループホームのブースにパンフレットを置かせてもらった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェースシートを確認し相手を知るようにしている。そして、話を聴き想いに沿えるように援助している。精神的に不安な方の話をじっくり聴いてあげたいが、無理な時がある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、話を聴くよう努めている。また、話しやすい関係ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを基本に支援。そして、日々状態変化していく上で何が必要か考え支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに過ごし出来ることはやっていただき、その中で必要な時は援助している。相談できる関係に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、様子を伝える。不足のものが出た時は主に担当者が電話で連絡している。遠足などへの参加を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診時、自宅によって来ることもある。知人が面会に来たとき、名前と関係の把握に努めている。 施設から知人に会いに行くなどのアクションはやっていない。	入居時には、私の暮らし方シート(B-3)を家族に作成してもらうことで、家族から事業所へバトンが引き継がれています。その取組みにより、『冬になると湯たんぽを使う』『食後は新聞を読む』『日記をつける』といった、これまでの習慣を続けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言い争いはあるが対応できている。孤立しないよう利用者同士の関係を見ながら支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡を取ることはないが面会に行ったことはある。退去すると関係は途絶えてしまうと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聴いたり体調確認しながら、本人本位に過ごせるよう努めている。	お風呂や就寝前など1対1となる場面には想いや意向がこぼれやすく、『個人記録』に残して共有しています。「自宅で静かに過ごしたい(そういつた日も欲しい)」と明確に伝えてくださる利用者もいますが、家族の協力が難しい場合は実現できないことも間々あります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシート・家族・職員から情報を得ている。入居時に生活歴を書いて持ってきてもらっている。記録に残すよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を見たりADLを確認。職員間で共有しながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議が開かれケアプランが作成されている。モニタリングの情報共有をしている。	職員が実施記録をつけるとき適切におこなえるよう、介護計画書のコピーの最新を見ておこなうことが浸透しており、介護計画書の理解、把握につなげることが叶っています。計画作成担当者となれる職員4名となり、本件に係る人材も潤沢です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昨年より記録の内容が濃くイメージしやすい。問題点があれば話し合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況の変化によって対応を変えている。もっとニーズに対応して多様化しなければと思うが、できるだけ柔軟な対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コスモス畑にドライブ・施設近くの池周辺の散歩・近くの保育園付近の散歩など実施。地域資源の把握が、まだ足りないと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本家族。遠方や都合がつかない時は職員で対応。必要に応じて電話やファクスで医師と連携を図っている。	18名全員が在宅の頃からの医師へ家族の介助で定期通院しています。受診前に医師に伝えたい情報は直接FAXしたり家族にメモで渡し、受診後についても複雑な場合は医師から直接電話がもらえており、個人記録に残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護師のため、連携取りやすい。早めの対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供をお互いして関係づくりを行っている。退院後の支援など家族と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、終末期の話をして家族の意見を聞いている。この段階だと家族は考えていないことが多く、職員と家族の温度差がある。	看取りの実績は未だなく、職員の意識確認や研修も立ち遅れています。契約時には「看取りはできるが…、条件がある」として、「家族の協力が必要」と説明するほか、延命治療の希望の有無についても確認しています。	法人内の経験豊かな事業所職員を講師に招いての勉強会があると、良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年4回訓練計画している。全員が参加していないので身についているとは言えない。地域の協力の声かけはしていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回訓練計画している。全員が参加していないので身についているとは言えない。地域の協力の声かけはしていない。	法定訓練2回を超え、放水訓練など年4回程おこなっています。大停電では自家発電が機能して薄明りでも何とかかなり、カセットコンロ対応で食事も滞りなく整えることができました。一方で地域の防災訓練は参加できていません。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として言葉を選んで声掛けしている。できるだけ丁寧に声掛けしている。上から目線にならないよう注意している。入浴時タオルをかける配慮をしている。	退出のとき「おじゃましました」と言っている姿や、こぼしてしまったお茶の代わりを優しく用意してくださったり、「此处は利用者のお宅」と捉え利用者のリズムに合わせた動きや言葉に繋がる職員ばかりであることを視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時、着替えの服選び、喫茶時の飲み物選びを声掛けしている。自己決定できない方にも聞くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく個人の気持ちを聴くようにしている。体制上こちらの都合を優先することもある(特に入浴)。活動が少ない方には本人ペースではなく、活動を促している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の配色に気を付けている。2か月に1回整容訪問があり、家族に相談しながら利用している。本人からの訴えある時、家族に連絡し行きつけの美容院に行く方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人に特定しないで、出来る事をそれぞれにお願いしている。ほとんどの方が快く引き受けてくださる。	盛り付けや配膳、下膳が主体的にできていて、「あれ、これあなたのでしょ」と主婦の集まりのようなやりとりで楽しげな食卓です。当初は輪番で食器洗いを分担していましたが、「今日は私」と主張してしまうケースもでてしまうため、『自分のものを洗う』方式に切り替えています。	西ユニットはTVがかかっていましたが、東ユニットは癒し系サウンドが流れていて、雰囲気が異なります。西も東と同じような穏やかな雰囲気があれば、なおよいと思います(TVは見ている様子がなかったこともあり)
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増加状況を見ながら調整したり、歯や咀嚼状態に合わせ、大きさを調整している。摂取量を記録して把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けし、必要な方は誘導や介助している。自立の方は確認はしていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンを把握し声掛けや定時誘導している。適したパットの検討をしている。訴えやサインを見逃さないようにしている。	排泄チェック表をつけてはいるものの、その一人ひとりの動きや癖等様子観察からの声かけで失敗を防いでいます。職員が介入しなくてもトイレが可能な人は6名いて、汚してしまっても自身で洗って干すこともでき、職員は見守るのみとしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼っている部分もあるが、個々に応じて起床時に牛乳を提供している。又、体操や運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回実施しているが希望や季節によっては3回入っている。誘い方、誘う時間、誘うタイミングに配慮している。	見た目には家庭にありがちな一般浴槽は、実は可動式となっているので、左右のマヒに対応できます。さらに重度となると、座ったまま入浴可能な機械浴、さらにとなればリクライニング式の機械浴と、重度化となっても湯に浸かる喜びを味わうことができる設備が整っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由なが臥床・就寝している。車いすの方は褥瘡予防にも配慮し、静養時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時のマニュアルや薬剤情報で情報把握・共有できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族が嗜好品(ヨーグルトや果物など)を持ってきて下さる。預り金で自販機のジュースを買うこともある。「自分もできる」という意識を持っていただく為に、それぞれの出来る事をやって頂いている。把握が足りない部分もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	屋外へ散歩、ドライブや家族を誘っての遠足(今年度は掛川花鳥園)の実施。	その人の動くペースによって1対1、1対2と構成を替え、冬でも本人が「出たい」となれば散歩を決行しており、本人も「寒いっけや～」と帰ってきて、また翌日出かけています。「ここはね、そこを散歩していくと、亀がいるのよ」と散歩コースについて語ってくださった利用者もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金の上限を決めて、希望者のみ預かっている。個人で持っている方はごく一部。(家族の希望もあり了解のもと本人管理としている)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるようにしてある。自ら電話希望や手紙書きたいという方は、いないように思われる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具を持ってきてもらっている。季節に合った装飾作りをしてフロアに飾っている。窓から見える景色を感じていただいたり外気浴や散歩を楽しまれている。毎日清掃し衛生管理を行った。	入居時には自宅のレイアウトを確認して、なるべく近いものになるようにしたり、動線への配慮もユニット会議で協議されています。昼食後に床掃除をおこない、遅番の職員が床と椅子などのコンタクトポイントを拭きあげるとともに、職員が気づいた都度清掃して清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが置いてあり、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋のレイアウトは家族に聞き工夫している。畳生活だった方はカーペットを持ってきてもらった。食器や箸も個人の物を使用している。洗濯物をタンスにしまう時は、なるべく一緒に入れるよう心掛けている。	洗面台が備わっていて、大半の利用者が歯磨きを居室でおこなっています。自宅から想いおもいのモノを持ち込んで、その人らしさが現れています。仲良しの部屋を訪問して会話を愉む様子も常に見られる場面です。	西ユニットの居室には高さのある洋服ダンスもありましたので、倒壊防止用突っ張り棒の導入等、家族とともに検討ください。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリー。自立した生活ができるよう安全な環境づくりに気を付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400091		
法人名	社会福祉法人 大須賀苑		
事業所名	グループホーム 野楽里(西の里)		
所在地	静岡県掛川市大淵12680-1		
自己評価作成日	平成30年12月17日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2297400091-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年1月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すぐ傍に池があり天気の良い日は散歩に出かけています。交流ホールがあり地域の方などが活動に使用しています。家事仕事やレクリエーションなどを利用者・職員と一緒に「出来る事」の継続を図っています。毎月2ユニット間の交流を図るように、レク活動を計画して実施している。また、年に1回、家族をお誘いして遠足に出かけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

来月には開設3年目を迎える当事業所は、本年地域とのかかわりについて成果につながっています。小学生の来訪では配膳などを手伝ってもらい、小さな手に支えられる喜びを味わう一日となっています。中学生の職業体験は掃除や整容(ドライヤーで髪を乾かす)をお願いし、横須賀高校の郷土芸能部の生徒には昔懐かしいお囃子を披露してもらえ、郷愁で涙を流す利用者もいました。退出のとき「おじゃましました」と述べる姿や、利用者がこぼしてしまったお茶の代わりに優しく用意してくださる等、「此处は利用者のお宅」と捉え利用者のリズムに合わせた動きや言葉に繋がる職員ばかりであることも財産です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意識して実践に繋げている。忘れてしまうこともある。利用者の見えないところに「見える化」すれば忘れないかもしれない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慰問・草刈りに来てもらっている。地域のお祭り見学をした。地域の一環として日常的な交流はないので、気軽にできるとよい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活動が少ない。発信が少ないので事業所のことが知られていないのではないかと。もっとPRが必要だと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施し意見交換している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議で現状報告している。体制などわからないときは電話で連絡をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを実践している。今年度より委員会を設け取り組んでいる。言葉の拘束を意識しているが、出ているかもしれない。職員間でオープンに話し合いたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修に参加している。言葉の暴力について身体拘束委員会で意見交換を行う機会が持てた。スピーチロックの言葉を聞いてもその場で注意できない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	言葉は聞いたことはあるが、よく理解しているとは言えない。 学習会は実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者又はリーダーが計画作成担当で、身元引受人に契約時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族と情報共有し要望など聞いている。法人の苦情解決委員会で取り上げホームページなどで公表している。満足度調査アンケートも1年に1回実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案があったときは上司に報告している。今年度、法人全体の取り組みとして毎月面談をすることとしていたが、継続できていない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	厚生休暇・誕生日休暇、また年次有給休暇が取れるよう配慮してくれてありがたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員ではないが、外部研修に参加する機会がある。また、法人の内部研修があり勉強になるが、変則勤務で参加に無理がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	11月に市で開催の「ふれあい広場」への参加をほかの施設より声をかけてもらい、グループホームのブースにパンフレットを置かせてもらった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1での会話に心掛け、笑顔で接するよう努めている。安心できる声掛けの実践。入居前にアセスメントシートに記入してもらってケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に報告したり、受診の際は様子をファックスし家族にも渡し情報共有している。労いの言葉をかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の情報や家族の要望をあらかじめ理解しておいて、その時の対応に備えている。状況を報告することで、家族が他施設への申し込みの準備が行いやすい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに過ごし出来ることはやっていただき、その中で必要な時は援助している。相談できる関係に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設で撮った写真を個人のアルバムに入れている。本人の悩みや要望を家族に伝え、共有し解決を図っている。担当だけでなく、誰でも対応できるように心掛け共に支えていく関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時伺ったり生活の中で支援に努めている。「ご近所だった」利用者、顔見知りの利用者との関係を大切にできている。なじみの場所への外出はできていない。友人がいつでも来られる環境づくり、手紙の返信などしていきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言い争いはあるが対応できている。孤立しないよう利用者同士の関係を見ながら支援している。できないことを指摘してしまうので対応が難しい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡を取ることはないが面会に行ったことはある。退去すると関係は途絶えてしまうと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聴いたり生活を見ながら、出来るだけ本人本位に暮らせるよう検討している。探っている。職員本位となりがちだが入浴時など話せる機会を作っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシート・家族・職員から情報を得ている。入居時に生活歴を書いて持ってきてもらっている。記録に残すよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を見たりADLを確認。職員間で共有しながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議が開かれケアプランが作成されている。モニタリングの情報共有をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昨年より記録の内容が濃くイメージしやすい。問題点があれば話し合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具はレンタルできないが一般レンタルとして貸与受けるケースもある。理容訪問があり家族と相談して利用している。この身体状況の変化に応じと特養への説明をした。多機能化の取り組みは不足かと思う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コスモス畑にドライブ・施設近くの池周辺の散歩・近くの保育園付近の散歩など実施。地域資源の把握が、まだ足りないと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本家族。遠方や都合がつかない時は職員で対応。必要に応じて電話やファクスで医師と連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護師のため、連携取りやすい。早めの対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供をお互いして関係づくりを行っている。退院後の支援など家族と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、終末期の話をして家族の意見を聞いている。この段階だと家族は考えていないことが多く、職員と家族の温度差がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年4回訓練計画している。全員が参加していないので身についているとは言えない。地域の協力の声かけはしていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回訓練計画している。全員が参加していないので身についているとは言えない。地域の協力の声かけはしていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部屋の施錠(本人希望)対応やトイレ対応時に声掛けの工夫ができています。プライバシーに配慮している。居室のドアは閉めるようしてあるが不十分な時もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく希望に沿うよう心掛けています。自己決定できない時は選択で対応している。希望がかなえられない時は「○○ならできるけど」という提案もしている。時々、職員本位になってしまう。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく個人の気持ちを聴くようにしている。体制上こちらの都合を優先することもある(特に入浴)。活動が少ない方には本人ペースではなく、活動を促している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容には時間をかけて行っている。「素敵」と声をかけたり、肌の状態も気にかけて保湿クリームを塗ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る事を把握し手伝ってもらっている。リンゴのオシャレ剥きを思い出してカットしている方もいた。一人に偏らないよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重変化や血糖上昇に考慮しここに応じて栄養摂取、水分確保している。摂取量低下した方には補食も行った。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほぼ行えているが自立の方に声掛けのみになっている。訪問歯科を取り入れた家族もいた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンを把握し声掛けや定時誘導している。適したパットの検討をしている。訴えやサインを見逃さないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼っている部分があるが、ここに応じて起床時に牛乳を提供している。又、体操や運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回実施しているが希望や季節によっては3回入っている。誘い方、誘う時間、誘うタイミングに配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に臥床している。就前薬の必要な方はタイミングを図り内服している。それでも不眠の時は追加している。また、眠れない時はホットミルクなどを提供したり静かな環境づくりに配慮している。その時によるが日中の活動に力を入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時のマニュアルや薬剤情報で情報把握・共有できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日できるだけ散歩に誘い、気分転換を図っている。買い物など家族が対応できない時は職員で対応している。遠足年1回(今年は掛川花鳥園)、ドライブも実施。遠くへの外出希望はない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外へ散歩、ドライブや家族を誘っての遠足(今年度は掛川花鳥園)の実施。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金の上限を決めて、希望者のみ預かっている。個人で持っている方はごく一部。(家族の希望もあり了解のもと本人管理としている)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りができるようにしている。手紙の代読をした。変身できるように支援したい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具を持ってきてもらっている。季節に合った装飾作りをしてフロアに飾っている。窓から見える景色を感じていただいたり外気浴や散歩を楽しまれている。毎日清掃し衛星管理を行った。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置を変えたり席を変えるなど、過ごしやすい環境を作った。固定気味なのでもう少し工夫が必要かと思われる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋のレイアウトは家族に聞き工夫している。畳生活だった方はカーペットを持ってきてもらった。食器や箸も個人の物を使用している。洗濯物をタンスにしまう時は、なるべく一緒に入れるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリー。自立した生活ができるよう安全な環境づくりに気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容